

文化財をたずねて①

私たちの南国市には、数々の「文化財」があります。そのいくつかは市民に親しまれていますが、まだ余り知られず、埋もれているものがあります。

これらの文化財をもう一度見直す意味からも、今回からシリーズで紹介していきます。

友だちや家族つれて、ぜひ一度

たずねてみてください。

きつと、感動したり、意外なも

のにめぐり合えるかも……。

参道の両側に、二本の杉の老木が相対して天を摩し、その二枝が横に伸び、両方の杉を連結してH状となり、あたかも生きた鳥居のようになっている。

全国でもまれな存在、貴重な天然記念物で、南国市の文化財に指定されている。

【交通】自家用車でしか行けず、市役所から車で四十五分五十

分ほどかかる。

桑の川の鳥居杉

南国市指定の天然記念物、桑の川の鳥居杉は、市の北端、桑の川の地主神社の境内にある。

私はおじいさんのあとを継いで十七歳の時から神社経営を三十余年間つとめましたが、地主神社や鳥居杉の起源は聞いたことがあります。

(姓は一豊公と同じ山内)せん。

門田政利さんの話（桑の川出身）

私はおじいさんのあとを継いで十七歳の時から神社経営を三十余年間つとめましたが、地主神社や鳥居杉の起源は聞いたことがあります。

（姓は一豊公と同じ山内）せん。

ただ、この地主神社は縁結びの神様で、杉は向かって右が雄、左が雌だそうです。

地主神社にかわることで、おもしろい話があります。

山内一豊公が参勤交代で江戸に上る時、本山の奥のミナ川で腹痛をおこし医者もいなく困っていたところ、九十歳余りのおばあさん（姓は一豊公と同じ山内）が作つ

た「ヨモギをもんだ汁」を飲んで治ったとのこと。

一豊公はたいへん感謝して、そ

の年の大洪水で荒地となつた桑の川三千石を与えました。その時、

一豊公と同じ姓だということで、区別する意味で、おばあさんの姓を「山ノ内」と改めさせたそ

うです。

当時、桑の川には十七軒の家が

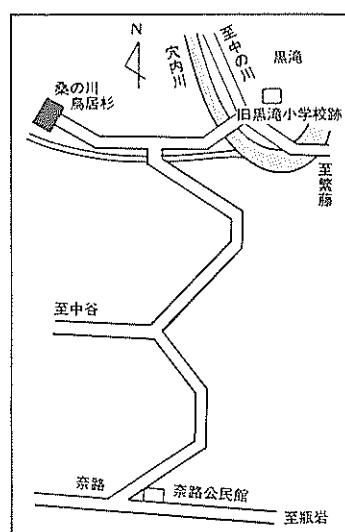
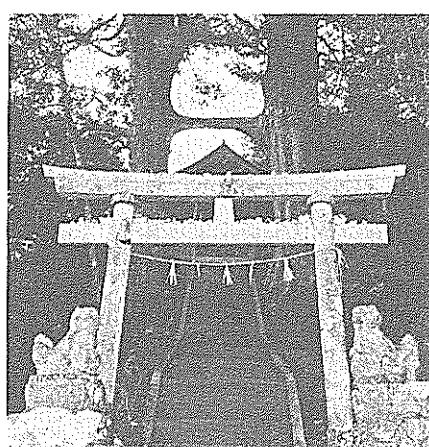
あつたそうで、山ノ内さんはその後、今の高知市介良へ出られています。

戦後、神社の中を整理している

と、山ノ内ホキエモンとオキエモ

ン親子があげた金の「ごへい」があり（年号はあきらかでない）、今も安置されています。

また、一豊公が築城の際に切つたという、大きな木の切り株も残っています。



1月（睦月）



「1982年」——「新しい年になつた」といつても、このごろは、どうも頭にピンとこない。心に穴がポツカリ空いた感じがする。この穴はどうしても埋まらない。どうしてだろう。生活にゆとりやハりがないからだろうか？

今年も、神社に「初詣で」に出かけた人の多かったことが…。

年頭には、だれでも自分の家族の健康や安全などを祈願する。和洋折中のご時世でも、神社仏閣は日本人の心のよりどころ、日本人特有の「心の穴」をいやす風習であるといえるのでは…。

みなさんは、この一年の福徳をどんなに祈られたでしょうか。

15日は「成人の日」——市内で、今年成人式を迎える若人は、男性288人、女性238人の計526人です。『はたち』になると、大人として、社会人としての自覚が要求されます。自覚がないと、はたちになつても子供あつかいされます。若さの特権を生かし、新たな出発点としてください。

国政では「行政改革」が本格化します。私たちの南国市でも、「財政再建」という重要課題があります。市の財政=市民の暮らしにかかわりがあるだけに、本腰を入れ取り組まなければなりません。

「年頭に思うこと」はだれでもあること——『後からはげる正月言葉』とならないよう、この一年、しっかりとフンドシをしめて行こうではありませんか。

むやみやたらに、大きなことを考えずに、着実に一歩一歩前進することを考えてみよう。